

# おちば

函根にて 久留島武彦

今朝不圖散りゆく木の葉の密をうつを見たり作りたる幼稚園向き唱歌三節御笑草迄お目にかけ候(編者宛書翰の末に)

(一) ハラ／＼ハラ／＼木の葉が落ちる

おちてはかさなりおちてはつもる

(二) そこにもこゝにもつもつた木の葉

また来る春までしづかにねむる

(三) ねむれよ木の葉よまた来る春に

若芽となるまで其のまゝ土に

『ポール・ドンビー』(ヂツケンス)(五)

|| 英文學に現はれたる子供(二十四) ||

岡田みつ

それからポールは、話を續けて、舞踏會のある  
それらうといふ事、皆か自分に親切にして呉れ  
事、姉も招待された事、姉が生徒等に美いと賞めら  
るから、自分も皆が好きだといふ事を話し、更に